

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

ホームページ <http://shakatsushin.cool.coocan.jp/>

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakatsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目一八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話/FAX(03)3299-5367
振替 0010019158431 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額 (郵送 350円・メール 175円)

6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

「社会通信」の三十九年とこれから

滝野 忠……2

職場での運動実践について

佐竹 要……3

―郵便局という職場で30年間働いて学んだこと―

『社会通信』ホームページの活用と拡散を！……18

読者からのおたより……14

編集部だより……17

旬刊 社会通信

NO. 1227

二〇一六年一月一日号

二〇一六年一月一日発行
(毎月一日・二五日二回発行)

「社会通信」の三十九年とこれから

『社会通信』は「社会正義上許すべからざることに筆評を加えることをむねとしたい」「社会のゆくえを曲げて報じて己を利するものを嫌う」との創刊の辞で出発した。創刊は一九七七年十一月一日である。今号（二〇一六年十一月一日付）で満三十九歳通巻一二二七号となった。本誌は今号をもって「紙」誌を閉じ、インターネット時代のホームページへ移行する。「通信」の三十九年は「サンザンクロウ」した時代となつたけれど、編集子にとつては楽しく豊かな年月であった。向坂逸郎、岩井章、灰原茂雄氏等、戦後日本の社会主義、労働運動の巨人から権勢に媚（こび）偏狭に傾く風潮への批判的精神、さらに社会的正義とは労働者階級の精神的、文化的教養を高め、労働者が自覚して次の新しい社会創造に資する活動であることを、勉強会、日々の生活と会話から学び、己の糧とできた。

私は丈夫な身体をもつて生まれなかつたらしい。母は「子どもの頃は本当に苦勞した」とよく語っていた。その私が、編集者、物書きとして不規則、不摂生な四十年余、大きな病もなく「通信」を一つの欠号、遅れもなしに発行できたことは、なによりの喜び、誇り、自慢である。「紙」誌からホームページへの移行を伝えてから、読者からのおたよりに一部掲載したが、「ぼくは創刊以来、私は『進路』の時代からの読者、さびしいけれどホームページでさらに励まして」のおたよりを数多くちようだいしたこととも望外の喜びである。月刊誌は重く大きく深い理論や情勢をとりあつかう、「旬刊誌」は月刊誌、日刊紙との間にあって、大きな問題であれ本質を損ねず簡潔、明快、かつやさしい記述が求められる。こうした読者の要望に寄りそう執筆者、投稿者の努力が私を助けてくださった。

四十年余、全国を旅した。行つてないのは沖縄だけだ。時代は厳しく揺れ動き、己の世界観、価値観を揺さぶられることも少なくなかった。向坂、岩井、灰原氏が存命時の社会党攻撃（一九七七年～二〇〇三年）、中曽根臨調行革（一九七九年～一九八七年）、国鉄分割民営化攻撃と国家的不当労働行為による国鉄労働者の首切りと解雇撤回闘争（一九八三年～二〇一一年）、労働運動再編成（一九七九～一九八七年）、社会党解党と新社会党結成（一九九三年～九六年）等は、三人に指示を仰げばすんだ。困難は増した。一九九〇年を前後した社会主義諸国の崩壊、世界的な反革命の時代の到来である。一人ひとりが己の考え方、世界観を問われた。

これら大きな出来事、事件、活動を取材、さらに渦中の労働組合員と目的を共通する活動をつうじ、歴史のダイナミズムを直接体験したこともそうである。これら諸体験の総合として現在の権力（安倍自民党政権）がある。歴史は、権力者はその権力を維持し、己の願望を果たすためには、何でもすることを示す。

反動政策は、生活の不安定性をいや増し、反動を正そうとする作用を国民の間にもたらさずにはいない。それは『資本論』が説くところである。この立場をさらに鮮明にし、ホームページで継続したい。当面は、『通信』の三十九年をとともに考えたい。読者諸氏の生活体験とこれからへの活動の投稿をお願いしたい。

（滝野 忠）

職場での運動実践について

―郵便局という職場で30年間働いて学んだこと―

はじめに

通信1226号を読んで、山下俊幸さんの「活動家に変身」を興味深く読ませていただきました。私もそうですが、何の思想性もなく社会に出て職場に入り、その中で当局（会社）から受けた言動で資本主義社会の存在を知ることになり、現在にいたりました。

当局（会社）の労務管理が、労働者意識を生み出すなんて、資本家にしてみればなんと皮肉な結果なのでしょう。「作用」が「反作用」を生み出すという視点に立てば、今の日本の社会は「反撃の芽」が充満しているといっても大げさではないでしょう。

振り返れば、私自身、「この社会を捉えるためにもまず情勢から考えることが重要だ」という事を、国労の仲間や「権利問題研究会」（だったかな？毎年、発刊されていたものです）から学びました。そして、この「社会通信」も、国労の仲間から教えてもらい、購読することになりました。

いま、自分の職場で起きていることは、どんな些細な出来事であっても、資本主義システムという背景（土台）から起きている、という「モノの見方」を学ぶことができましたし、「情勢から考えてみる必要があるよ」ということを後輩たちに伝えていかなければと実践中です。

送った資料は、昨年、自治労北海道青年部の座長養成講座に講師で呼ばれていたのに「吹雪」で欠席となり、自分用に用意した原稿（※本頁右タイトルで掲載）を事前に送ってあったものを「講師不在のため、読み合わせ」をしたそうで、その感想（※本誌では省略）を送っていたいたものです。郵政職場も働きづらさがありますが高まっています。情勢から検証する」という視点を仲間に伝えていきたいと思えます。

最後になりますが、私自身、購読者の拡大がなかなか進まずご迷惑をおかけしましたが、私も含め全員、社会通信から多くのことを学ばせて頂きました。本当に感謝しています。これからもホームページを通じてとはなりますが、どうぞよろしくお願いたします。（追伸） やっと、お礼を書きました！（北海道・かなめ）

戦略

日本って、資本主義社会、資本家のための社会なんだ

資本主義社会って、人間の生命（いのち）よりも、

儲け・お金優先の社会なんだ

でも、お金よりも、生命（いのち）の方が優先ではないのか

資本主義社会でなくても労働者がいれば社会・生産は成り立つ。

だからこの社会をかえたい

戦術を実践するには、戦略が必要。 戦略をたてるには、情勢分析が必要

■ある民間職場の実態から

「生産性向上運動」と労働者の働かされ方

■『資本主義社会』って、どんな社会？

人事労務管理とは、企業の経営資源のヒト（労働力）・モノ（生産手段……設備や原材料など）・カネ（資本）の3要素のうち、ヒトを対象とする管理活動である。ここでの「管理」とは、自ら意思を持ち活動する人間を、企業目的の達成のために制御・統制することである。

カール・マルクスが著書『資本論』で言及しているように、資本主義社会においては、財やサービスのみならず労働力（労働力の使用权）も商品として売買されている。ただ、労働力はその販売者である労働者と不可分であり、購入した労働力は労働者の意志を通じて行使され、必ずしも購入者（企業側）の自由にならないため、他の一般的な商品とは大きく異なる。そこで、企業を円滑に運営し、労働力を効率的に使用する（労働者の能力を最大限に引き出す）ために適切な人事労務管理が必要となる。

【ウィキペディアから引用】

儲けを大きくするためには、徹底的に労働力を買いたたく『搾取率』を上げる（そうしないと資本間の「競争」に勝てない）

「会社あつての労働者意識」を植え付けることが至上命題

■職場での攻防点と闘いの実践例

様々な手法で賃金切り下げのための労務管理が行われる

労働者同士の競争をあおって団結させないように仕向ける

そのひとつに人事評価制度（郵政の状況について）

その他にも

■職場の中で問題意識をひろめよう

身近な仲間と不安や怒りを共有するため、自分がどんな投げかけよう

問題意識を磨くためにも、賃金学習を深めよう

自己紹介 釧路市出身。高校卒業まで在住。現在、斜里町に住んでいます、妻と中学生の娘の三人家族です。四十九歳。妻は斜里の保育園で保育士をしまして皆さんと同じ自治労組合員です。どうぞよろしくお願いします。

採用は斜里郵便局で、10年前に希望していない配転命令で網走郵便局に転勤となつて、斜里から片道50分ほどの距離を自家用車で通勤しています。今の仕事は貯金窓口で、定額貯金の純増目標や様々な金融商品のほかにも郵便物販や保険など、目標でんこ盛り状態で働かされています。

父親の職場（十条製紙釧路工場）実態

私は釧路市出身ということで、父は十条製紙釧路工場。現在日本製紙に勤めていました。今は退職していますが、その当時、父がどのような働かされ方をしていたかは、あまり真剣に話したことはありませんでしたが、それでも、少しずつは状況を聞いてはいました。早番、日勤、夜勤など、正式名称は忘れましたが「三交代制の勤務」で、自治体職場では看護師さんはその大変さを実感できると思います。

紙を作る製紙工場ということで、たとえば新聞紙の元となる紙を作るための巨大なロール紙の製造機が大きな音を立てて回っている工場のなかで、紙の巻き取りが正常に行われているか、監視しながらの作業があるそうです。この現場では常に製造機から離れられない。時には回転している紙がグシャグシャッとジャムると、一気に大量のジャムったロール紙が発生するそう。すぐに止めないと損害が大きくなります。

夜勤のときにジャムってしまった時は、そのジャムったロール紙を冷たいコンクリートの床の上に敷いて、それを布団替わりにしながら、その中に入ってまた機械の監視を続けるそうです。この話を聞いた時は、当時、学生ながらも、涙が出ました。

その他にも、紙を漂泊するために様々な薬品が使用されているようで、その中には劇薬もあるそうです。ときどき、これらの薬品が頭の上から落ちてきて体にかかり、皮膚があちこちただれて、しょっちゅう塗り薬を塗っていたことも記憶しています。

また、様々な機械が回っている職場なので、職場の仲間が作業中に機械に巻き込まれて死亡する労災が発生することもあると聞かされたことがあります。そうした災害では、身体の原形をとどめていない場面もあるようで、あまり想像したくないな〜と思ったりもしました。

小集団管理 ある日のこと、父が家で何やら図面を引きながら書き物をしていたことがありましたので、「何しているの？」と聞くと、「どうやったら効率的に紙が作れるか。生産性が上がるか。たとえば、製造機の歯車の位置を代えるとか、部品を代えるとか、そういったことを考えて職場のチームで発表する場があるんだ」ということでした。

就職してから分かったのは、こういった取り組みは「職場改善運動」、「小集団活動」といった「生産性向上運動」のひとつで、民間職場では一九八〇年代ころから導入されていたものです。郵政の職場でもその後、提案活動やチーム発表会、危険予知訓練といった形で導入されてきました。

生産性向上運動 「生産性向上運動」というのは、その字のとおり、労働の生産性を上げることによって、資本家の儲けを拡大することが目的の運動のことです。昔の労務管理は労働強化といったハード面での労務管理中心だったものから、その後は「労働者にいかにやる気を起こさせて働かせるか」という労働者の意識や気分を誘導する手法を取り入れた労務管理が多くの職場で展開されています。

その具体的な取り組みとして職場改善運動や提案活動、安全標語の提出、チーム発表会など形は様々ですが、みなさんの自治体職場でも導入されているものがあるはず

ですので、今日集まっている皆さんの自分の職場で「生産性向上運動」がどういった手法で行われているか、あらためて点検してみてもいいと思います。

労働運動との出会い

今から30年前、就職のため18年間暮らした釧路市を高校卒業と同時に離れることに。私の趣味は宇宙、天文が好きなので、理科の先生か釧路市の青少年科学館に勤めたいなという思いもあったのですが、共通一次試験も落ち、釧路市の職員採用試験も落ち、合格していた国家公務員試験の郵政に就職することに。配属されたのが現在住んでいる斜里の郵便局。就職当初、私は将来、郵便局長になることを目標にしていましたし、いろんな啓発本を買い込んで読んだりもしていました。

加入オルグ活動 このころの郵便局には労働組合が三つあって、それぞれの組合が新規採用者を自分たちの組合に獲得しようと、加入オルグ活動が大変活発でした。私の場合も就職前に釧路の自宅に労働組合の方が勧誘にきました。家に来たのは「全通」という組合の方で、もうひとつの「全郵政」と「郵産労」からはオルグに来なかったのと、配属される斜里郵便局は「全通一色」の職場と聞いていたので、私は全通に加入しました。

ちなみに現在の郵便局の労働組合は「全通」と「全郵政」が統一してできた「JPL労組」と「郵政産業ユニオン」という二つの大きな組合があります。

私が配属になった斜里郵便局の「全通斜里分会」もそうですが、斜里町は国鉄の「国労」や営林署の「全林野」、役場の「斜里町職労」など、北海道レベルでも組合活動が活発な地域だったこともあって、組合活動がたいへん身近にありました。

転機—ストライキ 私は採用時から局長をめざしていましたが、組合活動の必要性に目覚める大きな出来事がすぐにやってきました。それは採用になってから1年後の85春闘でした。斜里分会が全通一色の職場ということで釧路地区管内のストライキ拠点職場に選ばれ、「早朝短時分スト」の指令が出されたことでした。

スト指令が出されると職場の雰囲気が一変しました。今まで和気あいあいと話していた管理者が豹変して、「明日、全通信労働組合は違法ストライキを予定していますが、あなたは仕事に就きますか」と二人体制で、メモを片手に職員一人ひとりに質問して回りました。私も事前に組合の先輩から「全通の方針に従います、と答えるんだぞ」とレクチャーされてはいたんですけども、実際、私のところに管理者二人が来た時は正直怖かったです。声を震わせながらも「私は全通の方針に従います」と答えたのを今でも覚えています。

管理者と労働者・組合 このやりとりで、管理者いわゆる当局と、労働者・組合員は立場が違うんだ、「対立した関係が自分の職場の中にあるんだ」ということを学びましたし、また、スト前夜の分会集会には各地の全通だけでなく、自治労、国労、全林野など多くの産別の仲間が激励に駆けつけてくれたこともあって、「自分の職場という狭い範囲だけではなく、あらゆる職場で使用者対労働者という構図がある」とや、

「産別を超えた労働者の団結、共闘の素晴らしさ」というものを同時に学ぶことも出来ました。

残念ながらストは前夜に解除になってしまいました。このストライキ拠点職場に選ばれ、当局の本性を目の当たりにしたことで、資本主義社会のしくみをリアルに学習できたことは、とても貴重な体験となりましたし、いま振り返れば、父親の働き方を知って、「労働者って、本当にきついな」ということを子どもながらに感じていたことも、組合活動の必要性に気付けたきっかけになったのかもしれないと思っています。

職場での攻防点と闘い

人事評価制度 今、多くの職場で問題になっている「人事評価制度」も、その目的は労務管理です。いかに労働者から搾取をするか、そのために導入する攻撃のひとつです。自治体職場でも来年4月から導入されるということ聞いていますので、郵政職場での現状について報告したいと思います。

「人事評価シート」 郵政の職場でも「頑張った者が報われる」制度という名目で人事評価制度が導入されていますが、さらに今年の4月からは「新たな給与体系」も導入され、いよいよ毎月の給与や年末手当、さらには退職手当にも反映されることになっています。この間、「人事評価シート」を使った自己評価と、その内容に対する評価者からの対話や評価結果を知らせるフィードバックが行われてはきましたが、「透明性」や「納得性」への疑問。また、管理者の恣意的な評価などへの不満や疑問が未だに解消されていません。

中には、社員へのフィードバックを行っていないのに、「全員のフィードバック、完了しました」と北海道支社に嘘の報告をする管理者もいるなど、導入前から懸念された問題が一向に改善されていないのが現実です。

こんな状態ですから、「真剣に評価シートを書く気になんてならない」「フィードバックの管理者との対話だって形式的で、気づきを与えて次回頑張るようなアドバイスをしてくれることなんて一切ないし、管理者は評価を下げることしか言っていない」という仲間の声が大半です。それに、誰がどんな評価をされているのか、といった個別の評価内容はお互いに突き合わせをしない限り分からないため、適正な評価が行われているのかどうかを検証することが難しいという問題もあります。

労働組合が個別の評価に直接関われるのは、評価されたフィードバックに組合員が不服を申し立てた場合に限られるため、「アンケート方式」などで組合員から評価に關しての実態や不満の声を集約し、それらを検証・分析することや、組合集会などで全体討論するなどしながら改善要求をぶつけていくことが大事になってくると思います。残念ながら、JPオホーツク南支部ではこうした取り組みがなかなかできていません。

矛盾 ただ、この間、どこの職場でも賃金削減や人員が減らされ、仕事がつくなくなっているなかで、「少しでも手取りを増やしたい」とか、「自分だけはいまの職場で生き

残りたい」といった低賃金労働者ゆえの切実な気分が、人事評価制度や業績評価制度導入に対する「淡い期待感や幻想」にすり替えられてしまい、反対しきれない要因になっています。ここにも資本主義社会の仕組みが労働者の気分反映されているという図式が確認できます。

実際、郵政でも人事評価制度や業績評価制度が導入される際、何百ページにもぼる分厚い職場討議資料が修正版も含めて何回も配られ、ページを開けば「A査定プラスは22%云々」と数字が並び、うがった見方をすれば、「本質を隠すために、わざと難しく書いてあるんじゃないか」と思うくらい、資料を読んでも理解することが非常に難しい。現場の管理者も社員に質問されたら答えられない状況でした。

それだけでなく毎日の労働強化で仕事が終わったらぐったりで読む気にならなかつたり、本来日常的に大事な賃金学習会や職場集会在が皆無というJP労組の組織力低下の中で、人事評価制度に対して問題意識を持ち切れない状況もあります。

目的・ねらい そもそも、この制度自体、使用者側にとっては「賃金総額の引き下げ」が目的ですし、「賃金が上がらないのは、あなたの業績が悪いからだ」とする資本側の主張は、「賃金は労働力の再生産費だ」と訴える「労働者側の賃金論を根絶やしにしたい」という思想攻撃だと捉える必要があります。

「困った時は、原点に帰れ」ではありませんが、そもそも「資本主義という社会の仕組みから様々な問題が発生している」という図式がある訳で、その図式を当てはめてみれば、雇用や労働条件問題も、テロや平和問題も、この人事評価制度もすべてつながって見えてくるということです。つまり、「資本主義社会だからこのような攻撃が行われるんだ」という見方をして行けば、ハッキリと敵の狙いや反撃方法が見えてくると思います。

反撃方法 そうした意味から、人事評価制度導入の狙いについて考える時、青年部では何が出来るのか。

例えば、「賃金とは『業績や労働結果の対価』なのか、『労働力の再生産費』なのか、といった労資間の見解の違いがどうして存在するのか」というテーマで学習会をしてみることや、「賃金とは何か」という基礎的な賃金学習を単組の青年部で取り組むことからまずは始めてみることをお勧めしたいと思います。

人事評価制度の導入という資本の攻撃が、労資の対立関係という資本主義社会の仕組みを考えるきっかけを作ってくれている。また、その攻撃への反撃を通して労働者が学習し、思想や組織が強化される、という意味からも、賃金学習を徹底的に取り組むことが、のちのちの青年部活動に必ず生きてきますので、全道の各単組で取り組んでいただきたいと思います。

生命と権利を守る

職場でどんな実践をしたらいいのか、私なりのやり方というか、心がけている事についてお話ししたいと思います。

やり方、心がけていること 冒頭の自己紹介でも話しましたが、10年前、斜里郵便局から網走郵便局に転動してきた訳ですが、網走局に着任早々、局長から「今までのようには行きませんよ」と言われました。要するに、「組合活動が強かった斜里分会のときのように、ここでは振る舞えないぞ」という脅しでした。

「そんなこと言われなくても分かってる！」というか、「それが俺を配転させた本当の目的だろうが！」と腹の中で煮えくりかえりましたが、まずは必死に仕事を覚えることに専念しました。

実態 網走に来てビックリしたのは、配属された郵便内務の現場では「30分前からの時間前着手が当たり前」だったり、トラック便の到着時間の関係で「昼休憩1時間完全に取り替えることができない」など、本来あってはならないような作業実態が見えられていたことです。今までの私なら、すぐ当局に申し入れ改善させるところですが、人間関係がまだ職場の中に無いなかでは、まずは我慢の毎日でした。

他にも悩んだのが、網走分会の組合活動が崩壊状態ということでした。そこでまずは非常勤職員や正社員との人間関係づくりを力を入れることにしました。時が経つにつれ、仕事の方も何とかこなせるようになり、少しずつではありますが分会活動を一緒にやってもらえる組合員も出て今日を迎えています。

オカシイよね、頭に来るよね この間、私がいつも意識して取り組んできていることは、職場の仲間は多かれ少なかれ、仕事や当局・会社への不満を持っていますので、率直な気持ちを言葉で吐き出させるように話しかけることです。

例えば、「さっき管理者が言っていたことって、オカシイよね」とか「今度仕事のやり方が変更されるけど、ふざけてるよね」といった話を仕事中でも仲間に話します。ほぼ毎日、1回以上話します。なぜなら、「オカシイよね」とか「頭に来るよね」といった想いを口に出して言えるような雰囲気職場の中に定着させることが大事だと思うからです。この「不満や怒りを言える雰囲気」が職場の中に無くなってしまおうと、お互い何を考えているのか疑心暗鬼になってしまうし、何かおかしいことが起きても反論しづらくなってしまふからです。

そして何よりも、お互いの不満や怒りを確認し合うことが仲間同士の信頼関係に繋（つな）がるといふメリットがありますので、とにかく出来るかぎり毎日、意識的に会社当局への不満を言いあうことを実践しています。

こうした取り組みは自分が働いている窓口職場だけではなく、その他にも食堂で食事をしながら郵便外務の仲間と出来るだけ雑談したりして、何か問題がないかを聞き出したりもしています。

昨年は、郵便外務の非正規の組合員から「雇用継続の条件変更に関して管理者から不利益な発言があった」と昼食中に相談が持ちかけられ、さっそく本人から状況を聞きとったあと管理者を質すなど、やれる範囲のことを取り組みました。

その結果、100%改善できたわけではなかったんですけども、会社とやり取りする

私の様子を見て「組合に相談して良かった」と言ってくれましたし、また、彼自身も「いままで自分のことで精いっぱいだったけど、同僚の非正規社員を組合に入りたい」と感想を言ってくれるなど、ほかの仲間のことが考えられるような「労働者としての成長」にも繋がりました。

朝礼 このような中で、最近、職場で実践している事があります。それは毎朝行われている「朝礼」にたいするO村さんや貯金の仲間達との抵抗の取り組みです。

「朝礼」といえば、みなさんの職場でも導入されていると思いますし、「朝礼の何が問題なの？」と疑問に思われる方が大半だと思います。郵政職場では当局が朝礼の場を「労務管理上、とても重要な場である」と捉えていて、管理者が異動で替わるたびに「やり方」も変更されたりします。

そこで今回、みなさんにぜひ知っておいてほしいことは、当局は朝礼を単なる業務周知伝達の場としてではなく、「俺たちはお前たちの使用者である」という支配体制を労働者の意識に植えつけることを目的にしているという、「労務管理」のひとつだということ です。

例えば、並び方一つとってみても「何列に並べ」とか、「円陣を組め」とか、いつも軍隊的に細かく指示してきます。また、「札を交わす」といった儀式にこだわるのも、「職場での上下関係の徹底を図る」という狙いがあります。一見、当たり前のように行われている「朝礼」ですが、そこには当局・会社による「思想管理」がある、ということを見抜いてほしいと思います。

仲間の想い 今回、この朝礼に対して抵抗するにいたった経過や仲間の想いについて少し説明します。

私とともに抵抗を直接取り組んでいるO村さんは北見郵便局から転勤してきた方で、転入当初は郵便の窓口でした。ところがその後、貯金窓口の要員が転勤のため2名欠員になったことを理由に、郵便担当から貯金の担務に変更させられました。

実はO村さんは前の北見郵便局でも人事の扱いで理不尽な扱いを受けていて、「今回の担務変更でもまた当局はいいように人を動かす」と怒っている事を知りました。そんなO村さんとは、毎日、職場の中で会話を続け、ときには1泊の会議に誘いながら話し込むなど、お互いに共感できる関係を積み重ねてきました。そのうえで、「分会の活動にも協力してほしい」という私の想いもO村さんに投げかけてきました。

そんな彼には、その後、副分会長を引き受けてもらい、あわせて労福協の幹事も担ってもっています。私も基本組織の支部執行委員のほかに網走地区連合の副事務局長を担っていますので、一緒に連合の会議に参加した後はすき家やピクトリアで食事をする等などとして、職場の問題を話す場を多く作ってきています。蛇足ですが、すき家での食事は、すき家の過酷な労働実態がどうなっているかという職場点検も兼ねています。

話を朝礼に戻しますが、昨年、「10月から朝礼の実施方法を変更する」という案が当局から示されました。まずひとつ目に、いままでは窓口事務室でグルーッと円陣で

立たされてやっていたものを、今度は「管理者・役職者の列と向き合うように、一列目に渉外社員が立ち、その後ろの二列目に窓口社員が並べ」というものでした。さらに、二つ目に、「朝礼の開始時間を早めて、「始業時刻の8時30分から始めるようになる」というものでした。

不満 窓口を開けるのは9時からです。始業時間は8時30分からですから、この30分の間に窓口端末機を立ち上げたり、書類を棚から出してきたりといった準備作業があります。その貴重な準備時間帯に朝礼があること自体、みんな不満を感じています。「できれば朝礼なんて毎日やらないでほしい」「やるなら必要な周知事項だけにして短時間で終わらせてほしい」というのがみんなの共通した気分でした。

私とO村さんの朝の仕事の流れですが、まず、最初にATMが立ちあがる8時45分までのあいだに『前日の払い込み用紙をATM4台から抜き取る』ために、『鍵・カード管理機から4台分の鍵を取り出す』作業があります。

ところが、当局案の8時30分から朝礼開始となると、その作業が始められません。ましてや朝礼が終わるまで待っていると、9時から窓口を開けなければならないので、作業時間が短くなって、バタバタ作業になってしまいます。

最悪の場合には、前日発生したATMトラブルでエラーが出ていると、その対処作業をするはめになり、もっと時間がかかってしまいます。そのため、「朝礼の8時30分開始というやり方は絶対に認められない！」と当局に申し入れました。

途中離脱 当局とは、いろいろスタモondaを繰り返しましたが、結果的に、会社側からは「8時30分開始は変えられないが、朝礼中、ATMの鍵取り作業等はやつても良い」という「譲歩」を引き出したこともあり、不満ではありましたがこの新しい案を導入することになりました。

今、この新方式の朝礼をやっていますが、正直言って、「朝礼中のATMの鍵取り作業」と「途中で朝礼を離脱する」というのは、結構、「気分的にキツイ」ものがあります。

想像してみたいのですが、朝礼が始まっている最中に鍵管理機から4台分のカギをガチャガチャと抜き取り、いったん列に戻りますが、8時34分には途中で離脱する……。一見、これって「朝礼の妨害をしている」ようで、結構、「勇気」を必要とします。朝礼が進行中でも、ましてや、局長がしゃべっている最中であっても、8時34分には途中離脱して、二人でATM室へ駆け込んでいます。

でも、そこは当局が認めた訳ですから、O村さんと二人で毎日、妨害、ではなく(笑)堂々と鍵抜き作業と途中離脱の「抵抗」を実践しています。

みんな怒ってる ところで、今回取り組んでいるこの「抵抗」は、O村さんと私の「二人だけの取り組み」ではありません。なぜなら、変更(案)が聞こえてきた早い段階から、まわりの貯金内務のみんなに事前に話しかけ、みんなからも「当局案では業務

がしづらいし、軍隊みたいに並ばせることにこだわっているのはおかしい」とか、「朝礼にこだわる当局はバカだ！業務妨害だ！」とみんなも怒っている事が確認出来ていたからです。

だからこそ、もし途中で会社から「やっぱり鍵抜きや途中退席はやめてくれ」とクレームをつけられたとしても「反論」できる自信がありました。とは言っても、この抵抗を取り組み始めてから1か月が経過したころの時点でも、私は正直言って、少しビクビク緊張していました。

このような中で、普段は二人で行っている鍵抜き作業ですが、先日、「私が休みの日は、どうやっているの？」とO村さんに聞いたところ、「ひとりで鍵抜いて、時間が無いので朝礼には出ないで、まっすぐATM室に行っているよ」ということでした。この話を聞いたとき、私よりもO村さんの方がドッシリしているなと感心しました。その話に勇気づけられて、O村さんが休みの日は私も彼と同じ方法で実践しているところですよ。

労務管理の手法 以上、たいした取り組みではありませんが、労働者が仕事をやりやすくしたいと思っても、当局・会社は「労務管理（今回は朝礼）を優先」してやることにはそれなりの狙いがあることを学びました。

それは、当局・会社にとって朝礼をすることが目的ではなく、朝礼という儀式を通して「モノ言わず会社の言うとおりに反応する労働者づくり」のための労務管理の手法の一つである、ということですよ。

本質を見抜きたたかう

このように会社・当局が「資本主義社会の体制を維持・延命させるため」に、「本気」で攻撃をかけてきているその一方で、労働者の方はそうした資本の狙いや労務管理の狙いについての学習が不足しているため、「労務管理の狙いが見抜けていないこと」にさえも気づいていない」という危機的な状況になっています。

ただ、この社会は資本主義社会であり、労働者からの搾取を強めるために労務管理を強めなければならぬという性質を持っています。この搾取されるという過程の中で、当局や会社に対する労働者の不満や怒りは必ず生まれてきますので、身近な仲間たちと愚痴でも良いので話すことを意識して取り組んでいくことから始めれば、次の闘いへのステップにも繋がっていくと思います。

弱さも抱えている

最後になりますが、いろいろ話してきましたけれども、私自身、けっして強い労働者ではありません。いろいろと不安や焦りも抱えています。

一人の活動家として、資本主義社会をかえていくためには「まずは職場から競争を排除しなければ」と思っています。窓口作業中に「定額貯金や物販の実績が少しでも欲しい」とか、「他の人の実績や成果を羨ましく思ってしまう」とか、「定額貯金を

してくれそうなお客さんはカモーン。払込だけなら他の窓口に行ってくれ〜」といった競争意識についついなっている事がしょっちゅうあります。

なぜそんな気持ちになってしまふのか、その原因を考えたとき、毎日朝礼などで「営業実績」のことが言われ続けている事や、この間ボーナスが削減され続けている事。さらにはちかぢか郵政の株式が上場されることになっているのですが、そうなる合理化や人員削減がますます進むのではないか、などといった普段から抱えている雇用や生活の不安からくるのだと思います。

私たちがこうした不安を常に抱えているのは、今私たちが働いて生きているこの社会が「資本主義社会」だからであり、資本主義社会の仕組みが私たちをそういう気分させているんだということです。

「この社会が続く限り、雇用不安や生活不安が解決されることはない」という事実をぜひ学んでいただきたいと思います。

たたかいの土台 このような考え方を土台にしながら、職場での実践を取り組んでいくことが重要です。そのうえで、まずひとつ目に、自分自身がいまの職場で何に不満があつて、どんなことが問題だと思つているのかを明らかにすること。つまり、自身の問題意識をはつきりさせるための実践を取り組んでみてください。ここがないと、仲間働き掛けていくことができません。

そして二つ目に、身近な仲間にとんどん自分の疑問や想いを投げかけて、その感想を聞いてみる。そしてまた投げかける、というキャッチボールを続けながら、「オカシイよね」と言う言葉が自然に出てくる雰囲気職場の中に作っていくことを追求していきましょう。これが、職場での実践です。

この職場での実践では、仲間から反発されたり、否定されることもあるでしょうし、新たな意見や仲間の意外な一面を知る機会もあるはずですが。そうしたことを青年部の中に持ち寄つて議論すると、今度は違った角度から仲間に向けてみよう、といった議論も生まれてきます。

学習 合わせて青年部の皆さんに取り組んで欲しいのは、やはり学習です。今回の話の中で「搾取」「労務管理」とか「生産性向上運動」など、最近ではあまり使われないう言葉を使いましたけれども、私たちは今、資本主義社会のなかで生きているという事実から物事を見ていけば、目の前で起きている出来事の原因や背景がけっこう分かります、繋がつて見えてくるはずですが。

その切り口として、賃金学習があります。賃金から見えてくる社会のしくみや労働者の扱われ方等、賃金学習を取り組む中で、幅広い視点を身につけることが出来ます。分かりやすい学習本が労働大学などから出ていますので、それらを使った青年部学習会を、職場での実践活動と同時並行で取り組んでいただきたいと思います。

おわりに

私自身、郵政職場の中で組合活動が思うように取り組めていない中で、今回、この

ような機会を頂き、何を話そうかとても悩みましたが、押し込められた郵政職場の中でも職場の中にはたくさんの不満や怒り、そして組合活動への期待や切実な思いがあること。だからこそ、職場の中での問題意識の投げかけや会社・当局への問題提起など、実践活動を続けていくことによって共感する仲間が自分の周りに生れてくるということを皆さんに伝えることに意識しました。

終わってみれば斉藤青年部長から要請を受けていた講演内容からは、ほど遠いものとなってしまうことを、まずもって反省するところです。

また、今日参加された青年部の皆さんにどれだけ理解していただけたか、とても不安ですが、私の話を終わらせていただきます。ともに頑張りましょう。

（二〇一五年二月二八日講演メモ） J P オホーツク南支部 執行委員 佐竹 要

◇ 読者からのおたより ◇

新潟知事選・米山さんが当選 当初NHKは投票が閉まると直に当確を出すのでないかと言われていましたが、民放の方が早くまりました。六万の差をつけて、県政史上初の野党系知事が生まれました。とにかくありがとうございます。新聞では劇場型、ポピュリズムとかの批判もあります。

原発再稼働問題が焦点になったのも、元々相手（中央）が再稼働・原発に慎重で、少し「意固地的」に国に意見を言ってきた泉田降ろし（泉田を当初からの推薦してきた自民党・自分が出たいために県市長会を利用した森）が、必然的に再稼働問題を最大の焦点に押し上げました。県民は純粹に柏崎刈羽原発の再稼働がイヤだ、できれば止めてほしいとの思いで米山さんに投票しました。選挙戦の途中で確かに「慎重・安全性最優先」のうさん臭い候補にだまされませんでした。

米山さんは票のために「原発に慎重」になったのでなく、彼自身がこの五年間を物理的な観点で見ている中で変わり、この選挙戦で多くの運動員の姿、県民の思いを受けとめる中で大きく成長していったと思います。この闘いによって衆議員選も野党共闘をしなければならぬと民進党もわかったと思います。しかし、連合は森支持でした。森ゆうこさんの選挙では民進党が正式に支援団体に入っていたため、原発はニュートラルにせざるをえませんでした。今回は明確に再稼働に「同意しない」で闘ってきましたので、彼らがどう理解して野党統一を目指していくかです。とにかく正式の与党議員はわずか五名です。大変な道が待っていると思います。（新潟・小林義昭）

岩見ヒサさんありがとう 東北六県太平洋側で『原発』がないのは岩手県だけ。それには、元開拓保健婦の岩見ヒサさんの働きがあったこと、私は本誌1145号に書きました。その岩見ヒサさんは昨年九月十七歳で亡くなられました。「岩見ヒサさんを偲ぶ会」が今年九月七日の予定でしたが、台風10号の甚大な被害を受けた隣町岩泉町と共に田野畑村も被害を受けられたことから中止に。今は亡き夫に案内されて訪ねた際に託された「二婦人方が結束して、何としても原発再稼働を止めてください。」というヒサさんの熱い思いを大切に過ごしていきます。一九七三年第一回目から参加している「きれいな水といのちを守る合成洗剤追放全国集会」に、これからも参加し続けます。三陸の海を守り岩手に原発を作らせなかったヒサさんありがとう。左記「偲ぶ会」に送りました。「昨年九月五日、県公会堂で開催された岩見億丈先生の「焼却と放射能」講演会で前座を務めさせていただいた際、お母様は九十七歳になられたとお伺いしたばかりでした。

私が二〇一三年田野畑村の岩見ヒサさんを訪ねて、岩手への原発立地を阻止して下さったヒサさんに、子供たちの未来に尊い贈り物を頂いた事へのお礼を述べさせていただきました。この時ヒサさんは九十五歳でいらして、「あと五年は生きたい」とさわやかに話しておられました。

原発事故二十六年目のチェルノブイリでウクライナの子供にガンが多く、生存率は五十五%に過ぎないことを話したとき驚かれ、保健婦だったヒサさんは沈痛な面持ちで、「赤ちゃんはどうでしょうかね」と尋ねられました。（ウクライナでは毎年千人の小児ガン患者が発見されている）

美しく豊かな三陸の海を守ろうと、合成洗剤追放、石けん使用運動を進めていたパワーで、結束して明戸地区への原発建設を阻止されました。もし、この明戸地区に原発があったら、平坦な福島よりも重大な事故を招いたことは間違いなかったそうです。（岩手・照井モト）

私のコメント 本日「通信1223」手元に届きました。私のコメントをのせていただき感謝です。なお同封の預かり金については、少額ながらカンパとさせていただきます。今後とも宜しくお願致します。

転送 1223号の「青い芝の会」の里内さんの文、およびインタビュー記事を読みました。(東京・鈴木賢二)

させられる文なので、コピーして、あちこちに転送させてもらいました。(茨城・花井吉宅)

向坂、灰原、原 1226号、今回は、自分の原稿からではなく、原さんの巻頭言から読みました。いつも感じることですが、原さんは、すべての問題を階級の視点でとらえて、敵・独占資本の非人間性をやさしく解説してくれています。今回の論文も、私にとっては大きな力の源泉になります。今、相変わらず、向坂先生の本を次々と精力的に読み続けています。最近、やっと、向坂理論らしきものに近づき、理解し始め面白くなってきたところです。まだまだですが、先生およびその弟子ともいべき灰原さんたちのマルクス主義に対する確固たる自信と、その実践について改めて敬服し、爪のアカほどですが自分も前進できそうです。そして、様々な条件下でも頑張れる条件があることを知りました。今後も投稿を続けます。原さんの論文も楽しみですから、健康にご留意の上、

文筆活動を続けられるよう期待しています。(千葉・山下俊幸)

原点 進路の時から取り扱いをさせてもらってききましたが、これが最終となってしまいました。各組織の方針と板挟みになって、迷ったり、悩んだりするなかで、いつも原点に戻って考えさせてくれる通信が大きな支えとなってきました。長い間本当にありがとう。これからもお体を大事にしてがんばってください。還元金からのカンパです。役立てればうれしいです。(秋田・斎藤正雄)

向坂先生 誌代の返却方法についての連絡が遅れ申しわけありません。残金は少ないですが、全額カンパします。向坂先生が「学者になるな……」というようなことを言ったと思います。それぞれの能力・立場で行動することが大切であるということだと思います。しかし、私は「進路」「通信」と学ばせていただきましたが、行動のともなわない読者でした。また、テレビが普及してきた頃だったと思いますが、「テレビは「億総白痴化……」というようなことを言った人がいたと思います。でも二誌のお陰でマスコミ等に流されることなく過ごせたと思っています。同封の切手等はカンパです。長い間ありがとうございました。(千葉・安藤明)

出会い三十年 たいへんご無沙汰しております。四月に選挙、無投票という、地方は議員の成り手がない状況です。通信が紙でなくなるさみしさが、いよいよ現実になるのですね！ 私は文明に付いていけず、パソコンの使い方が分からないので、通信の情報に頼り切っていたその報いがやってきたなという感じです。三〇代に出会い現在六〇を超えて、老眼と乱視で文書と格闘中！ 滝野さんの努力に感謝です。少ないですが、晩酌に使って下さい！ これからもお体(奥さまも)を大切にされて更なる活動を願っています。(北海道上川町議・安部逸雄)

台風 お疲れさまです。返済の件ですが、少ないですがカンパということで扱って下さい。台風のないオホーツク側も連続的に来て、農作物など被害が出てます。(網走・鈴木孝)

奮い立たせて 前納(預かり金)の件、ご丁寧に連絡いただきましたが、当然カンパですので、ご奮い立たせて。ますます読者を奮い立たせて下さい。ご発展を祈念いたします。(鳥取・山田篤)

商人五年生に 御地も涼しくなってきましたが、お元気でなによりかと。私たちも九月一五日で商人の四年生から五年生になります。ほとんど休まず(正月の二日はお休み)人生のやり直し労働でしたが、羊羹にお店と頑張ってきました。年金一年生にもなりました。滝野さんとお会いしたのは、音威子府地区まなぶ友の会結成準備会の講師としてこられて以来国鉄闘争の終結までお世話になりました。これからも頑張ってくださいね。切手代を送ります。(音威子府・藤保文夫・美年子)カンパに 八月二日付けで前納返済について連絡をいただきましたが、これまでの貴重な情報。そして今後の活動に期待申し上げ返金には及びませんので収納下さるよう連絡いたします。

HP閲覧楽しみ 「預り金」についてはカンパとします。今後の活動に活用ください。長い間ありがとうございました。そして「苦労さま。ホームページ閲覧を楽しみます。(帯広市・田村廣視)会いましょう お元気ですか。七月に国会前集会で見かけて声をかけようとしたのですが、大勢の人ごみの中で無理でした。千葉さん(旧東京清掃)とは、何度かお会いしました。そのうちお目にかかれれば幸いです。小生、市民団体の事務局等で何かと忙しい毎日ですが楽しくやっています。預かり金返済はカンパします。(神奈川・高梨晃嘉)

創刊から 発行当初から購読させていただきました。郵送からホームページ閲覧により、預かり金が生じたとのことですが、わずかですがカンパで処理してください。長い間ありがとう。長い間ありがとう。長い間ありがとう。(神戸市・藤原一幸)

ありがとうございました おつかれさまです。誌代のごことは、お手数をおかけしました。私が誌代を振り込んだ時点では、もうすでに残金はなくなっていたはずで、返金の必要はありません。この間のお礼はとも言い尽くせませんが、本当にありがとうございました。気持ちばかりのカンパを昨日振り込みました。これからお身体大切に「ご健闘をお祈りしております。(鹿児島・米村麗子) 継続を 反独占・平和のお取りくみに心より、敬意を表します。郵送の取り止め残念ですが、HPでの継続頑張ってください。残金は「カンパ」といたします。気候不順が続きますが、くれぐれも皆様ご自愛の上で活躍下さい (府中市議・村崎啓二) ギネスもの。 残額はカンパです。長い間二人三脚による頑張り、ご苦労さまでした。 (横浜・小林晃) のでしよう。

原、山下、中澤論文 「前納(預かり金)」については少額ですが、カンパとします。「一月一五日号からホームページだけに」わけですが、「インターネットホームページの活用」が出来ない自分ですので、「進路↓社会通信」からの読者としては「極めて辛い苦しい選択」をせざるを得ない我身を反省するのみです。No.1226号が届きさつそく、「巻頭言・独占資本は惜しみなく命を奪う 原野人」、「三池と向坂教室」を無数に：山下俊幸、「資本論百五十年」：中澤秀行」をはじめ、「おたより」と「編集部だより」迄をじっくり読みました。本当にずつしりと重たくまさに読み応えのある深い内容であると実感し満足することが出来ました。山下俊幸さん(元昭和電工労働者・市原市)をはじめとする全国の先輩・同志・仲間の皆さんの諸活動・闘う姿勢にしっかりと学んでいきたいと思っています。滝野忠さん嘉津子さん、ありがとう。(札幌・松里福慈)

人生と重なる四〇年 長い間、購読をさせていただきありがとうございます。旬刊進路も含めてこれこれ四〇年位でしょうか。私の近くにはいつも社会通信がありました。積極的な読者ではありませんでしたが、私の人生と重なっています。これからは、ホームページでの閲覧となり、ついでいけるかどうかわかりませんが時代の変化を感じます。些少ですが残金はカンパです。これからもよろしくお願いいたします。(東京・小沼静光)

厳しくなる職場と高齢化 何度も案内いただきましたのに、返信せず申しわけありませんでした。厳しくなる職場、高齢化の家庭、休日の活動とで後回しになってしまいました。残金三四五〇円とのことですが、カンパとさせていただきます。長い間ありがとうございました。(新潟・長崎保)

米沢にも 遅くなりまして、申し訳ありません。僅かな残金ですが、返金はありませんのでご活用下さい。安保関連法(戦争法) 強行採決から一年が経過した九月一九日、米沢でも「戦争法廃止 憲法改悪は許さない 9・19置賜集会」が開催され、一四時から集会とデモが行われました。

置賜三地区平和センター・各地区九条の会・戦争やんだ！おきたまの会(やんだIIいやだ)が共催したもので、約二〇〇名の参加となりました。その後、一五時三〇分から米沢九条の会が主催した「座り込み」に合流し、リレートークで「戦争体制」反対をアピールしました。機会があれば、米沢にもお出かけ下さい。(米沢市・堀内勉)

これからも 旬刊「社会通信」を郵送にてお手数かけました。残金はカンパとしていただきます。(埼玉・柏木大)

HPで 社会通信の前納金返済についてのお知らせを受け取りました。残額はすべてカンパします。郵送でお手数をおかけしてきました。長い間ありがとうございました。十一月号からはホームページで閲覧させていただきます。(福井・落合節夫)

時に励まされ ご連絡すみません。一七五〇円は返納されなくて結構です。永い間「ご苦労様でした。あまり良い読者ではありませんでしたが、時に励まされたりしました。(高知・伊藤勝也) 私もエルダー 長い間、たいへんご苦労さまです。一〇月で最終誌、たいへん残念です。私もエルダーで、後四ヶ月になりました。身体に気を付け頑張りましょう。(茨城・佐藤盛彦)

カンパ 前納分の残金はカンパで。僅かですが運動の前進の為、使ってもらえたら幸いです。職を離れて六年になりますが、毎号勉強になりました。ありがとうございました。(埼玉・篠崎光夫) 毎回社会通信を愛読させていただいています。長野県の涌井と申します。誌代前納金返済についての返事、大変遅れて申し訳ありません。前納金残金については貴社にカンパさせていただきます。少額ですみません。今後よろしくお願いします。(長野・涌井純生)

残金はカンパです。おつかれさまでした。(八王子市・大江東)

ご無沙汰しております。が、元気でユニオン運動を続けています。さて、返済金が700円あるとのことです。が、カンパで処理して下さい。ではよろしく。(習志野・鴨登志)

残念 連絡が遅れて申し訳ないです。残金につきましてはカンパさせていただきます。「社会通信」が拝読できなくなるのが残念です。(埼玉・田村功一)

（紙）活字廃止は残念 毎号楽しみにしておりました。貴誌の情報「分析」は自分なりにとり組んで来た労働運動、政治運動をする際に本当に役に立ちました。（紙）活字の廃止は残念です。残金は些少ですが、カンパ扱い、取付費の足しにでもしてくださいます。（ゼロが二つ足りないかな）。振込用紙の通信欄に細かい汚い字を読み取り、記事にして下さったこともありましたが、その時はありがたうございしました。近況です。私も企業定年が近づきました。（東京・村崎雄三）

残念な気も 返信、大変遅れて申し訳ありません。残金は僅かですがカンパとさせて頂ければ幸いです。紙面で読めないのは残念な様な気もしますが、今後はホームページを閲覧させて頂けます。「通信」を縁の下で支えてこられた嘉津子様にも感謝、感謝。どうぞ健康には十分気をつけてお過ごし下さい。創刊からの長い間、本当にお世話になりました。（埼玉・小谷慎太郎）

パソコン使用で対応 旬刊社会通信の発行を続けられたことに敬意を表します。私はパソコンが苦手なメールをやつてきませんでした。紙媒体による情報収集だけで済ませてきましたが今後はパソコンの使用で対応することにします。仲間内からも求められていましたから。

読書家でもない私ですから読むとうとして購入した本はたくさんありますが、部屋は積読書で手垢に染まらない本が大部分です。そのうち読むにも目が疲れてママならない状態です。情報をコンパクトに集約されている旬刊社会通信は便利で参考になります。これからも活用させていただきます。また、ご連絡ありました会費の過納分の返却ということですが全てカンパということで処理してくださいにお願いいたします。定年退職して17年になりましたが激変する社会を見ながら何もできないことにいらだちを持つ日々、コツコツと活動は続けます。滝野さんには健康で頑張っていただくこと願うばかりです。（千葉・半沢勝男）

生きる楽しみ 八十二歳、ホームページで努力する。おかげさまで楽しい人生だった。生きる楽しみだった。勉強になった。本を読む楽しみも。（山梨・丸山和彦）

編集部だよりー 感謝とお詫びとお願いと

「紙」誌郵送・送信は本号が最終となってしまいました。「紙」誌廃止は「残念」「寂しい」「ビックリ」「パソコン使用は闘いの経過から辛い思いも」等々のたくさんのお便りをいただきました。ご迷惑をかけてしまいましたのに、激励やカンパまでもいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ふり返れば、あつという間の三十九年でした。社会通信創刊当時、私は反公害・医療・生活闘争などで総評・社会党の会議に出席していましたが、先輩や仲間から、『社会通信』は一年ともたない。早くやめなさいや、たいへんになるよ、「向坂先生の近くに住んでながら、どうして先生を困らせることをやつてるの。やめさせなさいやだめじゃない！」等々と言われ、戸惑いもありました。

当時の滝野は、夜の十一時頃になると、向坂先生からしばしば電話呼び出しがあり、ノート片手に先生宅にいそいそと出掛け、明るい表情で戻ってきたので、私は黙って見てるだけでした。私が社会通信社を手伝うようになりしたのは一九八九年三月、国鉄分割民営化が強行され、総評がなくなり連合が発足というなか、経費節減の補助的要員としてかり出されたことからでした。

当時の事務局は、「社会通信」発足当初向坂先生の推せんで就任された有能で几帳面な首藤千恵子さんがすべてを手際よくこなし、国労家族会の金平節子さんが確実丁寧に補佐されていました。しかし、首藤さんが二〇〇六年九月退職され、金平さんが二〇一一年七月に退職されてからは、仕事を効率的にこなせない私ひとりに。滝野にもみなさんにも迷惑ばかりかけて現在に至りました。

今年三月、ホームページバックナンバー立ち上げが終り、ほつとひと息したところで、体調を崩し、会計など細かな処理が困難になってしまいました。四月以降は仕事も活動も出来るだけサボって、ゆっくり過ごしてきましたら、今は何でもできそうな感じに。主治医は「年相応の機能低下があるが、腫瘍マーカーが下がって、とても良い傾向」とも。しかし、先日私は喜寿を祝っていたきながら、もうあれこれやらなくても良いかな、あくせくしながら暮らすことを卒業したい、そんな気分にならな。

でも、「紙」誌閉じて、苦しい思いや多大なご迷惑をかけてしまいました。本当にすみません。ホームページ作業は、沖電気闘争の秦康博さんと元全労協書記局の浜恵二さんのご指導ですすめ、面白く楽しい作業でした。次頁にも書きましたが、その活用と拡散をお願いできれば嬉しいです。インターネット『旬刊 社会通信』について インターネット『旬刊 社会通信』は、これまで通り月2回（1日・15日付）社会通信社のホームページから発行いたします。発行日の3日前までには、ホームページに掲載したいと思えます。当分の間これまでのメール購読者とご希望の方には、ホームページ掲載と同時に、『旬刊 社会通信』発行のお知らせをメール送信いたします。無料です。なお、継続して、『旬刊 社会通信』発行のお知らせメールをご希望の方は、社会通信のメールアドレス shakaisushin@nifty.com へ、その旨を特記しお申し込み下さい。（滝野嘉津子）

『社会通信』ホームページの

活用と拡散を！

ネットで「社会通信」と記入し検索すると、本頁の下記画面が現れます。画面上部の紺色の横帯は、「トップ」「お知らせ」「バックナンバー」「創刊号からの総目次」ご意見はこちらに」と、5つに分かれています。それぞれをクリックするとデータが現れます。とくにバックナンバーと総目次は、三十九年間の一覧が現れ圧巻。ぜひお試を！

下記創刊号から親しんできた「表紙」真上の朱書きには「最新号のもくじ：」「本式：」「略式：」とあります。「本式表紙」は下記と同じ赤と黒の見慣れた表紙で作成した全頁です。「略式」は抜げていただくために、容量少なく印刷インクが少なくすむものとして作成。各々画面上に指示してありますので、そこをクリックし開きご活用を。

十一月一日号までの分の「本式」表紙は、版下を印刷屋さんにお問い合わせし通信で印刷し、郵送・送信してきました。次号からは素人が作成しホームページに掲載します。訓練中ですが、どうしても容量大きく、見た目もイマイチ。そこで、下記左の「略式表紙」を作ったしだいです。お好きな方をファイルに保存したり印刷したりご活用ください。

前号でもお知らせ・お願いいたしました。が、ホームページは無料公開ですので、大いに宣伝し、出来るだけ多くの方々に見て頂き感想等語り合ってくださいたく願っています。また、そこでの問題やお互いの交流、運動や活動の報告、自らの思い、お知らせしたいこと等々、投稿いただければ嬉しい。

社会通信は二〇〇〇年以降、執筆者に掲載誌をお送りするだけで、原稿料や謝礼等々、お渡しできないままにつづけてまいりました。今後も同様の見通しで、申し訳ないと思いますが、よろしくお願いいたします。お互い健康第一での活躍を祈ってます。

